



トヨタモビリティ新大阪株式会社
代表取締役社長

久保 行央氏

くぼ ゆきお

「全体最適」の視点で地域密着 持続可能なモビリティで幸せな未来を

カーディーラーとして、地域とともに持続的な発展を目指すトヨタモビリティ新大阪。環境保護や子どもの安全見守り、音楽家支援なども積極的に推進する同社の久保行央社長に、当協会の崎元利樹理事長がその経営観や社会貢献活動への思いについて伺った。

立花大亀老師の教え

崎元 御社は北摂地域を中心に多くの事業所を展開されていますが、事業を展開する上で大切にされているお考えはどういうことでしょうか。

久保 1982年、私は大学入学を機に京都の大徳寺(如意庵)に下宿しました。厳格な父から「大徳寺の立花大亀^{たちばなだいき}老師に頼んでおいたから、そこから大学

に通え」とのお達しが出たのです。そして、ここでの経験が、私の経営に対する考え方に大きく生かされています。

大徳寺は禅宗の一派である臨済宗大徳寺派の総本山です。私は毎朝5時半に起きてお経をあげ、朝餉をいただいた後、老師のお点前をいただき、さらに作務をしてから通学していました。門限は夕方6時。しかし、テニスサークルとグリークラブ(男声合唱団)をかけもちしていた私は、門限を守りません。その度に寺の塀をよじ登って入っていたら、ついに老師に見つかり大目玉を食らいました。そこで「老師の秘書と運転手をするので、門限は

大目に見てほしい」と懇願すると、あっさりと許してもらえました。以来、私は老師のそばでさまざまなお話を聞く機会に恵まれました。

あるとき、老師から「経済とは何か」と聞かれたことがありました。私の専攻は経済学でしたので、「経世済民(世を経〈治〉め、民を済〈救〉うこと)です」と答えると、今度は「経世とは何ぞや」と。返答に詰まっていると、老師は「経は経緯の経で縦糸のこと。緯は横糸。縦糸と横糸を正しく織ることで布ができるように、世の中の経緯を正すことが経世である。元紡績屋の倅ならそのくらい勉強しておけ」といわれました。私は老師から「金儲けが経済ではない」と諭されたのです。

老師の言葉は禅の思想に基づいています。理性や論理を最大限重視する欧米の思考と異なり、森羅万象をあるがままに受け入れるというものです。自然界において人間の行動は小さなものですが、その小さな行動が全体最適を考えたのであれば、素晴らしい世の中になります。私はこの考え方を受け入れて以降、自己の論理で物事を決めつけずに、全体最適を考えながら目的を達成するためにあらゆる意見や可能性を見出そうと心がけています。

※立花大亀(1899～2005年/臨済宗の禅僧、茶人、書家)

崎元 社長室に立花大亀老師の墨書を掲げておられますね。
久保 「寰海端居定龍蛇（かんかいにたんごしてりゅうだをさだむ）」という禅の境地が書かれています。陸と海、つまり世界を俯瞰してどっしりと腰をおろし、龍か蛇かを見極めよという意味です。私はこれを「全体最適の視点で物事の本質を見極めよ」と受け止めています。



立花大亀老師の墨書「寰海端居定龍蛇」

お客様に選ばれるために

久保 大学卒業後は住友銀行(当時)に就職し、最初梅田支店に配属され、その後トレーニーとしてニューヨーク支店に配属されました。その両支店において私は、商いの真髄ともいうべき仕事に対する姿勢を学びました。

梅田支店では、松岡支店長(のちに常務取締役)、ニューヨーク支店では堀田健介支店長(のちに副頭取)、奥正之副支店長(のちに頭取)で、私はこのお三方から「給料はお客様からいただくものだ」という話をよく聞かされました。サラリーマンは、ともすれば上司に気に入られようとしたり、いかに会社の業績に貢献しているかをアピールしたりして、“上を見て”仕事をしがちです。お三方は、「そんなことではなくお客様のほうを見て仕事をしろ」とおっしゃるのです。

これは自動車販売でも同じです。どのメーカーの自動車を選ぶかはお客様の自由ですから、我々はお客様に選ばれるようにならなくてはなりません。そのためにはお客様の潜在的なニーズを顕在化して提案することが重要です。例えばお客様の自動車のトランクの中を見ると、ゴルフバッグだとかキャンプ用品だとか、趣味の道具が入っていることがあります。ご自宅を訪問すればお子さまの遊び道具も目にするでしょう。そうした趣味嗜好を把握しておくことは、お客様の思いを汲んだ提案につながります。在庫調整などといった自社の都合を優先してはいけません。

また、お客様が来店されると、いつもどこに座って、どんな飲み物を所望されるかなどといった情報を社員どうし

で共有しておくことも大事です。ご来店されたら、“いつものお席”にご案内し、「ブラックコーヒーでよろしかったですね」とお伺いすれば、この店は自分を大事にしてくれていると思って嬉しくなるでしょう。こうしたことも、自分よりも他人を思いやる禅の「利他の心」の実践といえます。

社会貢献活動への取り組み

崎元 企業の社会貢献という観点では、どのようにお考えでしょうか。

久保 人間は自然を犠牲にして文明を手にしてきました。自動車もそうです。排気ガスを出し、街を汚し、交通事故の原因にもなり得る。我々は自動車を販売してお客様に利便性と幸せを提供しています。その一方、自然環境への配慮や安全なクルマ社会づくりへの努力も必須だと考えています。そこで当社は、企業理念として「トヨタ自動車と共に、安心・安全で快適なクルマ社会づくりと、事業発展に努めます」「パーソナルサービスと地域貢献で、お客様に支持され選ばれる会社になります」「次世代のため、環境保護・環境保全に社員全員で取り組みます」を掲げ、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

崎元 具体的にはどのような活動をされていますか。

久保 例えば、年に2～3回ボランティアを募集し、竹害から里山の植生を守るために、竹の伐採を行っています。街の清掃を毎月行ったり、小学校に申し出て、黄色い旗を持った社員が交差点に立ち、児童たちの下校時の安全見守り活動を行ったりしています。また、ご家庭から出る天ぷら油などの廃油を回収し、洗車用の石鹼に加工してお返ししています。さらに、当社はプロサッカーチームのガンバ大阪のスポンサーをしておりますので、スポンサーズデーには地域の子どもさんに呼びかけて、選手がピッチに入るときのエスコートキッズに参加していただいています。

こうした地域密着型企业としての存在価値を高め、地域の方々から愛されることで社員が誇りと働きがいを感じ、収益を上げていくことで当社の持続的成長にもつながると思っています。もとより社員あつての会社ですから、私はそうしたエンゲージメント(仕事や会社への愛着心)を大事にすべきだと考えています。

若い演奏家を支援

崎元 昨春秋、御社のご寄付を原資に、アーツサポート関西で若いクラシック音楽家を支援する「トヨタモビリティ



① レクサス箕面『コミュニケーションラウンジコンサート』② 子ども安全見守り活動 ③ ガンバ大阪・エスコートキッズ(©GAMBA OSAKA) ④ 里山保全活動



新大阪ASK支援寄金助成」がスタートしました。地域のコミュニティやクラシック音楽に触れる機会の少ない方々に音楽を届けることと併せ、演奏家の活動の場を広げる機会になると期待されています。こうした文化支援についてはどのようにお考えでしょうか。

久保 社員や地域社会やお客様から存在意義が認められなければ、その企業に存在価値はありません。そのため、音楽を通じて地域社会が必要としていることを、できる範囲でサポートしたいと考えています。

崎元 御社では、ショールームでコンサートを開催されていると伺いました。

久保 当社のレクサス箕面で、2022年7月から毎月1回開催している『コミュニケーションラウンジコンサート』です。これも地域貢献と文化支援を兼ねた活動で、ピアノ、管弦楽器、声楽など、若手のクラシック演奏家に出演してもらい、近隣の北摂地域にお住まいのお客様を中心にお招きしています。これがとても好評で、来場者は毎回50組ほどの応募の中から抽選で30組の方をご招待させていただいています。

崎元 お客様の反応はどうか。

久保 間近で演奏が聴けることや、出演者による曲目解説などのトークもあり喜ばれています。お客様は「レクサスで車を買って、こんな体験ができるとは」と感動され、「次回もぜひ聴きたい」というお声を多くいただいています。

崎元 ところで、御社の源流は泉州有数の紡績企業「久保惣株式会社^{*}」で、代々の社長が蒐集された多くの古美術品が地元の和泉市に寄贈されて美術館になっていますよね。

久保 和泉市久保惣記念美術館(1982年開館)です。紡績業が衰退して廃業するにあたり、それらを散逸させないために5,000坪の紡績工場跡地に美術館を建て、コレクションと合わせて和泉市に寄贈したのです。



和泉市久保惣記念美術館(大阪府和泉市内田町三丁目6番12号)

崎元 私も一度、行ったことがあります。とても充実した内容で、素敵な時間を過ごさせていただきました。

^{*}久保惣株式会社…初代久保惣太郎氏(1863~1928)が1886年に大阪府和泉市で創業し、同市の発展に大きく貢献。1977年の廃業を機に、三代惣太郎氏が和泉市の文化発展と地元への報恩の意を込め、代々蒐集した美術品を同市に寄贈した。

クルマ社会の未来

崎元 御社の事業活動について伺いたします。EV(電気自動車)によって未来のクルマ社会が変わるといわれていますが、これについてはどのように見ておられますか。

久保 当社は現在、「カーボンニュートラルとセキュアなモビリティを提供し、人々の生活に幸せを届けよう」をスローガンとする3か年計画を推進し、より良いクルマ社会の未来に向けてさまざまな事業活動に取り組んでいます。モビリティ(移動手段)のEV化は国によって事

情が異なります。日本はエネルギー輸入国ですからEVは必要ですが、バッテリーに充電する電気を化石燃料で作らないことも重要ですし、充電場所をどう確保するかという問題もあります。また、電池代の高いEVのコストをいかに抑えるかも課題です。こうした課題に対して、トヨタはマルチパスウェイ(Multi Pathway)という発想のもと、EVに加えハイブリッド車や水素による燃料電池車など多様な手段でカーボンニュートラルを実現しようとしています。しかしながら、水素スタンドは数億円規模の建設費がかかりますし、消防法も整備する必要があります。日本におけるEV化は、まさに国のエネルギー政策にかかっているといえるでしょう。

インバウンド復調と大阪・関西万博

崎元 コロナ禍が収束してインバウンドが戻った現在、自動車ビジネスにはどんな変化がありますか。

久保 レンタカービジネスが非常に好調です。東南アジアからのご家族連れが多く、関西国際空港やホテル周辺からレンタカーで、大阪・京都・神戸・奈良の観光地へ足を延ばされるのです。あまりの多さにクルマが足りないほどです。

崎元 来春は大阪・関西万博が開幕し、インバウンドはさらに期待できますね。

久保 景気高場の良い機会だと思います。関西の文化や技術などを世界にアピールする絶好のチャンスですし、大阪の文化・経済の盛り上げにつながればと思っています。

崎元 そうですね。関西には、長く培われてきた多様な文化があります。今回の万博では、そうした文化を発信して「大阪・関西」が世界に飛躍する機会になってほしいと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。



久保行央社長(右)と崎元利樹理事(左)

(2024年7月1日/トヨタモビリティ新大阪株式会社、レクサス箕面にて)

久保行央氏

1963年大阪府堺市出身。1986年同志社大学経済学部卒業。住友銀行株式会社、トヨタ自動車工業株式会社を経て1993年トヨタモビリティ新大阪株式会社入社。2001年より現職。関西経済同友会「文化・芸術の力委員会」委員長。

トヨタモビリティ新大阪株式会社

本社: 大阪市淀川区東三国三丁目10-21。資本金: 3,000万円、売上高: 647.93億円(2024年3月期)、従業員数: 1,212名(2024年3月現在)。事業内容: 新車販売・リース販売、中古車販売、自動車整備、各種保険取扱など。店舗数: 新車34店舗、中古車14店舗ほか。

(写真提供: トヨタモビリティ新大阪株式会社)

